

本授業の主張点

光を通すことによって生まれる色の美しさを基に、身近な材料や場所を使って光のいろいろな効果を試しながら、造形活動する児童の姿をお見せします。

1 題材名 光と色のハーモニー ～カラフルマジック～ (造形遊び)

2 題材の目標

光を通すことによって生まれる色の美しさから、身近な材料や場所の特徴を生かして想像を広げて活動することができるようにする。

3 評価規準

- 光を通したり、反射させたりする色の美しさを効果的に生かしながら、身近な材料や場所でいろいろな組合せを試している。【造形への関心・意欲・態度】
- 光を通したり、反射させたりして生まれる色の美しさを基に、身近な材料や場所を使って、新たな活動を思い付くことができる。【発想・構想の能力】
- 自分の思いに合わせて、光を通したり、反射させたりして生まれる色の美しさを、身近な材料や場所に工夫して生かすことができる。【創造的な技能】

4 題材の構想

- 本学級の児童の実態は、低学年の時に色水づくり、砂遊び、ペットボトルのキャップ並べ、箱を高く積んだり、横に並べたりする造形遊びや新聞紙を細く切ってつなげる、新聞紙を体に巻いたり、覆ったりするなどの造形遊びを経験している。また、4年生になってから室内でのタフロープ、ストロー、新聞紙、アルミホイルを、屋外でマルチビニールシートとサランラップなどを遊具に巻き付けるなど材料や場を意識した造形遊びの経験をしている。造形遊びに対して、「体全体を使える」「思い切りできる」「大きなものがつくられる」といったように、前向きで楽しく取り組むことができている。低学年の造形遊びの経験が、現在の児童の造形遊びに対する意欲につながっていると言える。しかし、当学年になってからの造形遊びでは、活動自体が小さな範囲になったり一人の活動で終わってしまったりするなど、他の活動に広がりが見られない児童も中には見られた。以上のことから、材料だけで活動が終わるだけではなく、材料や場所に進んでかかわることができる造形遊びの経験を通して、児童が体全体を動かし、材料や場所に働きかける創造力を身に付けることができると考える。
- 本題材は身近にあるいろいろな材料に光を通したり、反射させたりして生まれる色の美しさを生かしながら、光を生かした場所を考えたり、光と場所から必要な材料を考えて活用したりするなど、児童がいろいろ試みる中で想像が広がるような造形遊びである。日常生活の中で光はなくてはならないものであるが、光によって生み出される思いがけない効果を基に、新たな活動を思い付こうとする意欲的な活動を期待したい。光を通すいろいろな材料を用意することで、光を通したり、反射させたりして生まれる色の美しさを基に自分の発想を広げる楽しい造形遊びにつながるだろうと考える。また、限られた量の光が入る室内だけでなく、日陰や日なたなど光の強弱や量が変化する屋外で活動を行うことで、その場所にふさわしい材料を思い付くなど、想像を豊かに広げることができるだろう。本題材の身近な材料や光、さらに場所を加えた3つのかかわり合いの中で、発想力や感性を働かせて思考・判断する力を身に付けることができると考える。さらにそれらの力が高学年における場所や空間に関わり合い、それらを基に構成したり、周囲の様子を考え合わせたりしながら進める造形活動につながっていくだろう。
- 本時では、導入において、前時に行った身近な材料の特徴を生かして、光を通すことで見える色や反射させて生まれる光を使った造形活動を振り返ることから始める。そこから、前時に行った造

形活動をさらに効果的に生かせる場所でいろいろと試しながら、広げていくように促す。日常的に使っている場所を、光を使ってどのように変化させることができるか問いかける。造形活動を行う場所が図工室の外に広がっていけるように図工室の後方の出入り口付近に光を通したり、反射させたりする身近な材料を置いておく。本活動で使う光を通す身近な材料として、色セロハン、タフロープ、ペットボトルや野菜パック・カップ等の透明な容器などを用意する。水彩絵の具やペンも用意して透明な容器に色をつけることができるようにする。また、光を反射するCDやアルミホイルも用意する。さらに児童が場所、空間まで意識できるよう、児童玄関の柱と柱の間にひもをかけたリ、場づくりのために柵をあらかじめ移動させたりしておく。これらの身近な材料を使ってできる光を使った造形活動を効果的に生かせるような場所に気付くことができるように、外の風景と一緒に眺める時間をもつ。展開では、児童が思い思いに活動できるよう、教師は児童の様子を見守り、称賛したり励ましたりする。その際、教師主導にならないように活動途中の全体指導は控え、自然に友達と交流できるような声かけを行う。また、場所を生かした造形活動を行っている児童を積極的に称賛し、他の児童の活動が広がるように促す。終末場面では、本時の活動を楽しんで振り返ることができるように、光を効果的に使った活動の工夫や光を通したり、反射させたりしてできる色の美しさ・面白さについての発言を取り上げ、造形的な価値付けを行うとともに、今後やってみたいことやできそうなことを児童に尋ねる。

5 指導計画（全2時間）

身近な材料や場所を使って、光を通したり、反射させたりする造形遊び（本時2／2）

6 本時の指導（本時2／2）

(1) 目標

光を通した美しさが効果的に見える材料を組み合わせながら、それを生かして身近な場所で造形活動をすることができるようにする。

(2) 展開

学 習 活 動（◇考えられる造形活動）	教師の働きかけ（○）
<p>1 前時に行った光を使った造形活動を振り返り、本時のめあてを確認する。（5分）</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>身近な場所を光で変身させよう。</p> </div> <p>2 活動を行う。（30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 色セロハンなどで窓を飾る。 ◇ 柱と柱をタフロープでつなぐ。 ◇ 色セロハンやタフロープで地面や壁に影を映し出す。 ◇ 段差や日光の差す地面に色水を並べる。 ◇ CDを置いたり、柱と柱につなげたひもなどにつるしたりする。 ◇ 階段の手すりをアルミホイルで包んだり、覆ったりする。 <p>3 本時の学習を振り返る。（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 造形的な気付き、美しさ・面白さについての感想を発表する。 ・ 後片付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の続きをすることを伝える。 ○ 活動を想起できるように、図工室やその周辺で、光を使った造形活動をさらに効果的にできる場所はないか問いかけ、外の風景と一緒に眺める時間を持つ。 ○ 前時で使っていた物を引き続き使っても、新たな材料で活動しても良いことを伝える。 ○ いろいろな材料を使って、色の美しさを試している児童を積極的に称賛することで、造形活動をしやすい雰囲気をつくる。 ○ 児童の造形活動が広がるように、プール周辺や児童玄関などにあらかじめひもを張ったり、下駄箱を移動させたりして場の設定をする。 ○ 一人一人が思い付いたことを出し合い、発想を刺激し合えるように、友だちと一緒に話し合いながら造形活動しても良いことも伝える。 ○ 活動の中で、造形的な点で気付いたこと、光を効果的に使った活動の工夫、造形的に美しかったところや面白かったことなどを尋ねる。

